

めんそ〜れ 沖縄

2年生の修学旅行にあわせて、図書館にも沖縄コーナーを設置してあります。今回の図書便りでは専門である社会科の先生から沖縄戦に関する本を紹介してもらいました。



「沖縄戦」に関する お薦め図書

『水滴』目取真俊/著

〈 作品解説 〉

第117回(1997年上半期)芥川龍之介賞受賞作。
ある日右足が腫れて水が溢れ出た。夜な夜な、その水を飲みに来る者がいる。その男の正体とは…。

「男達は、皆、思いつめたようにうつむき、徳正の足元を見つめている。頭を起こして見ると、もう1人、足元にしゃがんでいる男がいた。五分刈りの頭の半分を変色した包帯で巻いた男は、徳正の右足首を両手で支え持ち、踵から滴り落ちる水を口に受けている。男の喉を鳴らす音が聞こえた。立っている男達が唾を飲み込む。」(本書引用)

〈 先生より一言 〉

太平洋戦争中、日本で唯一、住民を巻き込んで地上戦が展開された沖縄戦。沖縄戦に生き残った主人公の徳正は戦後50年間秘めてきたことがあった。しかし、「水滴」によって彼は偽り続けた自分自身と向き合わねばならなくなる。ある日右足が腫れて水があふれ出るという奇想天外のストーリーのなかに、生存者が記憶を封印して、語るができない戦争の真実があることを考えさせる作品です。

『日本はなぜ、「基地」と「原発」を

止められないのか』矢部宏治/著

〈 作品解説 〉

なぜ戦後70年経っても沖縄のみならず日本全国の上空をアメリカ軍が自由に飛び回れるのか。福島第一原発の未曾有の大事故で、なぜ原発が廃止にならないどころか誰ひとり刑事責任を問われないのか。その答えを「日本国憲法の上位に安保法体系が位置する」という戦後日本の権力構造から解き明かした1冊。基地問題と原発問題をつなぐ謎解きが巧みに展開され実証的に著されている。

〈 先生より一言 〉

日本はアメリカの51番目の州としばしば揶揄される。州どころか、実はアメリカは日本の占領を今も実質的に継続していて、日本国憲法よりも米軍が上位にある。それが明確に示しているのが沖縄。沖縄の米軍機は日本人の家の上は好き勝手に飛ぶが、アメリカ人住宅の上は危険なので飛ばない。また、米軍関係者の凶悪犯罪も多発している。沖縄で起きることは、本土でも起きる。沖縄の実態を通じて日本が見えてくる、決して他人事とは思えない、目から鱗の作品です。



読書の秋！本に親しみ、秋を満喫しよう

灯火稍可親、簡編可卷舒。（とうか 灯火 ようや 稍く親しむべく、かんぺん 簡編 けんじょ 卷舒すべし）

訳 新涼の秋が訪れ、しだいに灯火に親しめるようになった。書物を紐解いて読むのによい季節だ。
【韓愈「符読書城南」詩】（中国名言名句の辞典より）

秋の夜長に本を手に取り、世界を広げましょう！



芸術の秋

「芸術の秋」ということで、
芸術に関する本を紹介して頂きました。

〈 先生のお薦め図書 〉

『大地の芸術祭』

—現代美術がムラを変えた— 北川フラム/著

〈 作品解説 〉

アートによるまちおこし、村おこしに携わってきた著者が大地の芸術祭 越後妻有(えちごつまり)アートトリエンナーレについて書いた裏側ドキュメント。地方での仕事、行政との仕事、地域振興とはどうすることかのヒントが綴られています。文章も読みやすく、内容も親しみやすい1冊です。

大地の芸術祭

新潟県越後妻有地域(十日町、津南町)の約 762 平方キロメートルの広大な土地を美術館に見立て、アーティストと地域住民とが協働し地域に根ざした作品を制作、継続的な地域展望を拓く活動を目的とする芸術祭。大地の芸術祭は「交流人口の増加」「地域の情報発信」「地域の活性化」を 主要目的としたアートプロジェクトである。

〈 先生から一言 〉

春に越後妻有に行ってきました。豊かな自然、美味しい山菜料理、そして芸術性の高い作品群。本当に楽しい旅行になりました。みなさんもぜひ遊びに行ってみてください。



『中原淳一の世界』

—幸せになる言葉— ひまわりや/監修

〈 作品解説 〉

マルチな才能で“本当の美しさ”とは何かを発信、女性達を魅了し続けてきた中原淳一のメッセージを本書の中で見つめ直しています。

中原淳一

18歳の頃、趣味で作ったフランス人形が認められ、東京の百貨店で個展を開催。そのことがきっかけとなり、雑誌の挿絵、口絵、表紙絵、付録等を手がけ、一世を風靡する人気画家となる。

その後は、ファッションデザイナー、イラストレーター、スタイリスト、インテリアデザイナーなど多彩な才能を発揮し、カリスマ的な憧れの存在となった。※ 男性です。

〈 先生から一言 〉

昭和初期の人気画家、中原淳一の魅力がつまった1冊です。

優れたデザインだけでなく、「美しい生き方」についてわかりやすい言葉で教えてくれます。